

花 き

実 況

1 キク

奥越地区の秋植え夏ギクの定植が10月上旬より開始されている。多くの圃場では10月15日までで定植が終了した。干ばつ気味の天候が続き、除草剤処理等に支障をきたしている。10月上中旬のJAキク部会の出荷は、50箱程度で、10月下旬よりJA花卉部会の「ジーニー」等のスプレーギクが出荷されている。病虫害はダニ類、黒さび病や黒斑病が多い。彼岸期には花腐れ病が見られた。ただし、生育自体は良好である(表1)。

あわら市の秋ギクは10月19日調査で「西門」が草丈86cmでやや生育が悪い。寒ギク「雪まつり」は、草丈75cmであった。11月上中旬が開花見込みである。病虫害はオオタバコガ類が小発生である。

表1 10月8日の生育状況(勝山市志田)

品種名	定植日	草丈(cm)	備考
かな	6月5日	92	
秀まりお	6月5日	115	
貴公子	6月5日	106	
沙織	6月5日	96	
水車	5月28日	108	
うんかい	5月28日	118	
こがらし	5月26日	124	スタント多
花乙女	5月26日	130	クロロ多
精みるく	5月23日	142	
精あずみ	5月23日	128	
精の秋原	5月15日	114	
秋姫	5月15日	96	

福井市の露地ギクは、福井市南部で10月19日調査では10月咲き「あずみ」が100cmで昨年と同様の生育である。露地ギクは品種間で生長の差が大きい。アブラムシ類が小発生である(昨年10月15日調査)。

南越地区では、10月14日調査で10月中旬にハウス内への親株定植が終了した。10月咲きの「かおり」100cm(105cm)、「スバル」95cm(100cm)であり、10月中旬から収穫中である(昨年10月15日調査)。

丹生地区では、10月14日調査で10月咲きの「ローズ舞風車」87cm(95cm)、「金風車」78cm(95cm)であり、10月中下旬から収穫、11月上旬に終了見込み。今年は排水不良の圃場で花茎が短い。「シューミルク」が86cmで11月上旬から出荷見込みである。全般に下葉に白さび病が少発生である。ハウス内土壤消毒が終わり次第、8月咲き親株の定植が10月中旬から始まり、下旬に終了予定である(昨年10月15日調査)。

二州地区の10月咲きギクは10月21日調査で「お吉」が草丈89.2cm(昨年88.6cm)で収穫中、「あんな」が127.2cmで開花始めである。11月咲きの「あけぼの」が草丈72.8cm、蕾径6.9mm、「山手星」が草丈74.4cm、蕾径6.6mmとなっている(昨年10月20日調査)。

若狭地区の7月、8月咲きのキクの親株が10月中旬にハウス内へ定植した。10月咲きギクは10月21日調査で、「白馬」、「かおり」、「おりづる」等が収穫を終了している。11月咲きは、「あけぼの」が草丈71.8cm(昨年54.6cm) 蕾径6.2mm(6.6mm)、「金ほまれ」が草丈76.2cm(97.4cm) 蕾径4.5mm(3.6mm)、電照の「ようせい」が草丈128.6cm(96.4cm) 蕾径7.9mm(8.1mm)、「白馬」が草丈99.8cm(昨年83.4cm) 蕾径5.9mm(4.6mm)となった。アザミウマ類は少発生、アブラムシ類が微発である(昨年10月22日調査)。

2 スイセン

7月下旬に定植された促成栽培は、9月上旬ころから発芽がそろい、10月5日から出荷(昨年10月8日)で昨年より出荷が早い。季咲きスイセンの10月下旬の草丈は、圃場によりばらつきがあるが平年より少し早く生育している。今後の気象により出荷時期は変動する可能性がある。

あわら市で9月上旬に定植されたスイセンは、生育が不揃いであり、葉長10~20cm前後である。

3 トルコギキョウ

坂井地区は、一部の品種に芯とびがみられる。10月19日調査で「北斗星」が草丈58~65cmで、収穫ピークとなっている(写真1)。

越前市では、10月14日調査で4月下旬播種、6月中旬苗冷蔵、7月下旬定植の「ボヤージュグリーン」は70cm、11対、「ロベラクリアピンク」75cm、12対、「サルサマリン」「バルカンマリン」65cmで開花初めである。9月中旬播きの「ロジーナブルー」「バルカンマリン」等は本葉2対である。



写真1 抑制作型の開花

4 ストック

坂井地区は、8月7日に播種された「ホワイトアイアン」が11月上旬から出荷始めとなっている(表1)。9月中旬の気温が低かったため(表2)、全体的に開花が早くなる可能性があるが、現在のところ10月28日前後から出荷が始まる見込みである。8月27日直播の「ブルーアイアン」草丈28cm、葉数28枚、「ホ



写真2 過湿による生育不良

ワイトアイアン」28cm、葉数29枚、「ピンクアイアン」26cm、34枚であった。9月の過湿による生育不良の圃場がみられた。病害虫ではハイマダラノメイガ、菌核病がみられる。

表2 本年度の気温(三国アメダス)

年度 月・旬	27年度の気温(°C)		26年度の気温(°C)		平年値気温(°C)	
	平均	最低	平均	最低	平均	最低
8/上	27.4	23.9	26.8	24	26.3	23.2
8/中	25.2	22.1	25.9	23.2	26.1	23.1
8/下	24.6	21.8	24.5	21.6	25.4	22.1
9/上	22.2	20.1	23.6	20	23.8	20.6
9/中	20.3	16.8	20.5	16	22	18.7
9/下	20.1	16.3	20.6	16.4	19.9	16.3
10/上	17.8	13.2	19.2	15.7	18.2	14.5

南越地区の10月14日調査のカルテットシリーズは、8月下旬から9月上旬まで連続的に播種されている。8月25日播種作型が草丈30cm(40cm)程度、9月2日播種作型で18cm(32cm)、9月7日播種作型では10cmである。

若狭地区では10月20日調査(昨年10月22日調査)で、7月中下旬に直播したアイアンシリーズが草丈65~75cm、カルテットシリーズが草丈60~65cmで、「ホワイトアイアン」

は 9 月下旬から開花が始まり、「カルテットホワイト」「カルテットローズ」ともに収穫終了、「パープルアイアン」「カルテットパープル」が開花盛期、「ローズアイアン」が開花始めとなっている。

5 ユ リ

坂井地区のスカシユリ「ブラックアウト」は、9 月 7 日定植で草丈が 55cm、「ラングレー」が 25cm となっている。

坂井地区の福井ユリ「リリブライトレッド」は 6 月下旬掘り取り、以降冷蔵、9 月初めに定植したものが草丈 52cm、2～5 輪であった（10 月 14 日調査）。病虫害は首枯病、乾腐病、アブラムシ類の発生がみられる。



写真3 「クリスタルブランカ」の生育

6 オータムビオレ

あわら市のシェード栽培は 9 月下旬からの出荷となり、草丈 100 cm であった。丹生地区のオータムヴィオレ（2 号）の普通栽培は、10 月 14 日調査で草丈 90-100cm と生育順調であった。昨年より早く収穫が始まり、10 月 14 日には収穫終盤となり、約 2,500 本の出荷であった（昨年 10 月 15 日調査）。一部、ネギコガの被害がみられた。

7 ハボタン

福井地区の切り花用ハボタンの「初紅」「ウィンターチェリー」は定植時期を早めに行い、本葉 2 葉での定植を行った。生育は順調である

表 福井地区のハボタン生育状況2015

場所	作型	品種	定植時期	草丈cm	調査日
福井北部	雨よけ	初紅	7月18日	60	10月15日
		晴姿	7月25日	65	10月15日
福井南部	雨よけ	初紅	7月18日	65	10月15日
		ウィンターチェリー	7月19日	75	10月15日
		晴姿	7月25日	75	10月15日
永平寺	雨よけ	初紅	7月18日	70	10月15日
		ウィンターチェリー	7月19日	80	10月15日
		晴姿	7月25日	75	10月15日

が、一部の圃場では 8 月の台風の影響で過湿のため生育にバラツキがあり、一部に「チョウ目」害虫の食害がみられる。

8 その他

フリージアは春江で約 1000 球、2 品種が 10 月中旬に定植された。生育が早く草丈 50cm で間延びしている。

対 策

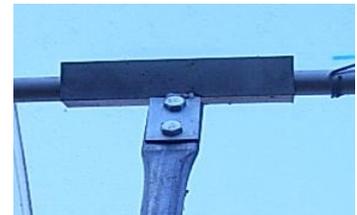
1 8、9月咲きギク親株のハウス搬入と管理

- 1) 親株のハウス内への植え付け適期は11月上旬までである。キクの根は地温が5℃以下になると、新根の発生が悪くなる。本年は冷え込みが早いので、早めの搬入を励行する。
- 2) ハウス内に床幅90cm前後、高さ20cm程度の畝を準備する。土寄せ苗を7×10cm間隔で植え付ける。苗（親株）は太くがっしりして、花芽のついていないものを選んで植える。止むを得ず蕾が着いた苗を植える場合は活着後蕾をとる。
- 3) 植え付け床が乾いている場合は、早めに灌水し適湿にしておく。
- 4) 植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。その後、ハウスのサイド側のビニールを、奥越では12月いっぱい、若狭地域では1月下旬までは開放する。
- 5) 植え付け後は月に1～2回、ジマンダイセンフロアブルやダコニール1000等の予防剤で予防散布を励行する。病気や害虫の発生を抑制するため、適宜下葉かきを行い、風通しを良くしておく。白さび病が発生した場合は、ひどい病葉を取り除いた後にサプロール乳剤などの治療剤を散布するが、耐性菌の出現を防止するため、散布回数は最小限にとどめる。黒さび病の病斑がみられる場合は、ステンレス剤等で蔓延を抑制する。害虫ではアザミウマ類、ハダニ類の防除を徹底する。
- 6) 植え付け後の灌水は控え目に行う。特に植え付けが遅れた場合に土壤水分が高いと、活着不良を助長する。また、灌水する場合は晴天日の10時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。厳寒期はできるだけ葉を濡らさないように灌水する。

2 スイセンの管理

1) 灌排水対策

今年度は10月に降水量が少ないため、灌水できる圃場では積極的に灌水する。逆に圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壤水分が少ない場合は、積極的に灌水を行い、適切な水管理を行う。



T字金具でハウスを固定

2) ハウスの雪対策を早めに行う

中柱として、パイプや孟宗竹、丈夫な垂木を3～4mおきに設置し、ジャッキ等で突っ張り、補強管理を行う（上部はハウスと連結すると良い）。ワイヤーなどでハウスの肩を引き付ける（積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため）。筋交いを補強する（建設時に設置しておく）。



設置面は板を置く

3) 病害防除

病害予防のためゲッター水和剤の1000倍液を散布する。展着剤も加用する。

4) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

3 ストックの管理

- 1) 昼間の気温を上げすぎると軟弱徒長し、さらに菌核病の発生を助長するので換気に十分注意する。夜温が8～10℃以下に下がるようになれば、夜間はサイドビニールを閉めて保温するが、室温が20℃より上がってきたら、サイドのビニールを開放して、換気を十分に行う。
- 2) ストックのハウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。ハウ素入り液肥を適時灌注する。
- 3) 出蕾を始めたなら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土等乾きの遅い圃場では、さらに早めにこれらの対策を行う。
- 4) 菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリバリン水和剤やトップジンM水和剤を散布する。後期はアフェットフロアブルを散布し、汚れに注意を払う。
- 5) 収穫適期は3～4輪が開花した時（市場によって多少異なる）を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水揚げする。

4 トルコギキョウの定植作業

- 1) 栽培期間が長いため、特に土づくりが重要である。堆肥を2～3 t / 10a 施用し、30cm以上の深さで耕起する。
- 2) 無加温ビニールハウスでは、遅くとも11月中旬までに植え付けをする。植え付け日の1週間程度前からハウスを密閉して、地温を十分あげてから植え付ける。
- 3) 本葉4枚になると茎が立ち始めるので、その前に定植する。
- 4) 植え付けは、晴天日や暖かい曇天日の午前中に済ませる。
- 5) 多湿条件下では、灰色かび病等が発生しやすいので、換気を十分に行う。発生時にはアフェットフロアブル、ポリバリン水和剤やゲッター水和剤等の薬剤で防除する。
- 6) 育苗中に、植え付け後の活着促進のため液肥1000倍を施用する。

5 福井ユリの定植作業

- 1) 定植適期は各品種とも11月下旬～12月上旬であるので、圃場の準備を進める。
- 2) ハウス周辺の排水対策を行い、定植20日前に石灰類10kg/a、ようりん1kg/a、堆肥200kg/aを施用し、土壌酸度をpH5.5～6.5に調整する。
- 3) 施肥は定植10日～2週間前に有機ブリケット特S90号(6-6-5)30kg/a、草木加里600g/aを全量基肥とする。
- 4) 畝は畝幅120cm(天幅90cm)で、栽植密度12cm×12cmの6条植えを基本とする。分球している球根は15cm×20cmに定植し、芽立ち後2本に整理する。球根の覆土は7cm程度とする。
- 5) 出芽してきたら、病害防除のためトップジンM水和剤、ダコニール1000等の薬剤による防除を行う。

6 完熟堆肥の積み込み

施設栽培では、良品生産、連作障害回避のため、良質堆肥が必要である。

- 1) 本圃面積 10a に対し、水田 30a 分の稲わらを積み込む。
- 2) 稲わらにススキ (3cm 程度に細かく切断したもの) を半分位混合して積み込むと、長持ちする良質の堆肥ができる。
- 3) 積み込む場合、10a 分の稲わら (500~600kg) に、水 1 トン弱と窒素分を補うため石灰窒素か硫安等を 20kg 適宜加え、積み込む。発熱後に、2~3 回の切り返しを行う。ようりん等を加えリン酸分を補給しておくと肥効が高まる。